

解析概論II演習問題 補足

桂田 祐史

2006年1月17日

2005年12月5日に配布した演習問題 No.6 の参考問題の解答をつけておく。

参考1 \mathbb{R}^2 におけるベクトル場 $f(x, y) = \begin{pmatrix} 3x^2y + 2xy \\ x^3 + x^2 + 2y \end{pmatrix}$ について以下の問に答えよ。

(1) f がポテンシャル持つことを示せ。(2) f のポテンシャルを(一つ)求めよ。(3) 次の各曲線 C_i にそった線積分 $\int_{C_i} f \cdot dr$ を求めよ。 $C_1(\cos 2t, \sin 3t) \quad (0 \leq t \leq 2\pi)$. C_2 折れ線 $(0, 0) \rightarrow (-2, 0) \rightarrow (-2, 4) \rightarrow (2, 4)$.

解答 (1) \mathbb{R}^2 は単連結領域であり、

$$\begin{aligned} \operatorname{rot} f &= \det \begin{pmatrix} \frac{\partial}{\partial x} & f_1 \\ \frac{\partial}{\partial y} & f_2 \end{pmatrix} = \frac{\partial f_2}{\partial x} - \frac{\partial f_1}{\partial y} = \frac{\partial}{\partial x} (x^3 + x^2 + 2y) - \frac{\partial}{\partial y} (3x^2y + 2xy) \\ &= (3x^2 + 2x) - (3x^2 + 2x) = 0 \end{aligned}$$

であるから f はポテンシャルを持つ。

(2) ベクトル場がポテンシャルを持つとき、ポテンシャルは線積分で与えられる。すなわち任意の $x \in \mathbb{R}^2$ に対して、

$$F(x) = \int_{C_x} f \cdot dr \quad (C_x \text{ は } 0 \text{ と } x \text{ を結ぶ滑らかな曲線})$$

とおくと、 F は f のポテンシャルになる。曲線 C_x を $\varphi(t) = tx \quad (t \in [0, 1])$ と取ると、

$$\begin{aligned} F(x) &= \int_0^1 f(\varphi(t)) \cdot \varphi'(t) dt \\ &= \int_0^1 \{ [3(tx)^2(ty) + 2(tx)(ty)] x + [(tx)^3 + (tx)^2 + 2(ty)] y \} dt \\ &= \int_0^1 (3t^3 x^3 y + 2t^2 x^2 y + t^3 x^3 y + t^3 x^2 y + 2ty^2) dt \\ &= \frac{3}{4} x^3 y + \frac{2}{3} x^2 y + \frac{1}{4} x^3 y + \frac{1}{3} x^2 y + y^2 \\ &= x^3 y + x^2 y + y^2. \end{aligned}$$

この F は確かに $\nabla F = f$ を満たす。

(3) もちろん定義通りに線積分を計算しても構わないが、以下のように簡単に求める方法があ

る。ポテンシャル F が存在するベクトル場について、線積分の値は $F(\text{終点}) - F(\text{始点})$ である。 C_1 は閉曲線である (始点と終点は等しい) から¹、

$$\int_{C_1} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} = 0.$$

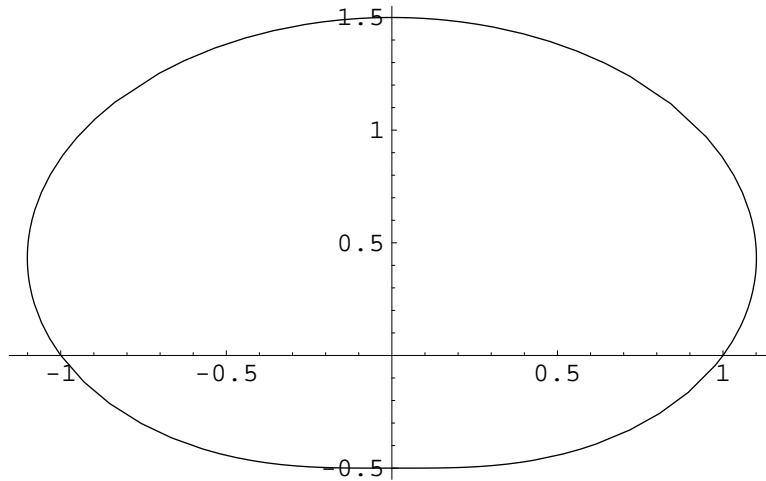
曲線 C_2 については始点が $(0, 0)$ 、終点が $(2, 4)$ であるから、

$$\int_{C_2} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} = F(2, 4) - F(0, 0) = (2^3 \cdot 4 + 2^2 \cdot 4 + 4^2) - 0 = 64. \blacksquare$$

参考2 極座標による曲線 $r = 1 + \frac{\sin \theta}{2}$ ($0 \leq \theta \leq 2\pi$) について以下の問に答えよ。

(1) 曲線の概形を描け。(2) この曲線で囲まれる図形の面積を求めよ。

解答 (1) これは簡単でよい (微分法を用いて「曲線の追跡」をしなくてもよい)。



(2) 色々な解き方がある。

この場合は、重積分の変数変換のところで紹介した公式²を用いるのが簡単であると思う。

$$\begin{aligned} \text{面積} &= \frac{1}{2} \int_0^{2\pi} r(\theta)^2 d\theta = \frac{1}{2} \int_0^{2\pi} \left(1 + \sin \theta + \frac{\sin^2 \theta}{4} \right) d\theta \\ &= \frac{1}{2} \int_0^{2\pi} 1 + \sin \theta + \frac{1 - \cos 2\theta}{8} d\theta = \frac{1}{2} \cdot \frac{9}{8} \cdot 2\pi = \frac{9\pi}{8}. \end{aligned}$$

あるいは Green の定理の例であげた、線積分で面積を計算する公式を利用することも考えられる。 $\varphi(\theta) = \left(\left(1 + \frac{\sin \theta}{2} \right) \cos \theta, \left(1 + \frac{\sin \theta}{2} \right) \sin \theta \right)$ とパラメータづけできるので、

$$\begin{aligned} \text{面積} &= \int_C x dy = \int_0^{2\pi} \left(1 + \frac{\sin \theta}{2} \right) \cos \theta \frac{d}{d\theta} \left(\sin \theta + \frac{1}{2} \sin^2 \theta \right) d\theta \\ &= \int_0^{2\pi} \cos^2 \theta \left(1 + \frac{\sin \theta}{2} \right) (1 + \sin \theta) d\theta = \frac{9\pi}{8}. \end{aligned}$$

¹他にも色々な方法がある。「ポテンシャルが存在するためには、定義域内の任意の閉曲線上の線積分が0であることが必要十分条件である」という定理を用いるとか、Green の定理を用いて $\int_C \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} = \int_D \left(\frac{\partial Q}{\partial x} - \frac{\partial P}{\partial y} \right) dx dy =$

$\int_D 0 dx dy = 0$ (D は C の囲む領域) と計算してもよい。

²個人的には、扇形面積の公式の自然な一般化であり、無理なく覚えらると思う。

参考3 ベクトル場 f を

$$f(x, y) = \frac{1}{x^2 + y^2} \begin{pmatrix} -y \\ x \end{pmatrix} \quad \left(\begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^2 \setminus \{0\} \right)$$

で定めるとき、以下の問に答えなさい。

- (1) xy 平面における円 $x^2 + y^2 = a^2$ (a は正の定数) を正の向き (反時計回り) に一周する閉曲線を C とするとき、線積分 $\int_C f \cdot dr$ を計算せよ。
- (2) $\operatorname{rot} f = 0$ であることを示せ。
- (3) f はポテンシャルを持つか、理由をつけて答えよ。
- (4) 円 $(x-2)^2 + y^2 = 1$ を正の向きに一周する閉曲線を \tilde{C} とするとき、 $\int_{\tilde{C}} f \cdot dr$ を求めよ。

解答 (1) 曲線 C は $\varphi(t) = (\cos t, \sin t)^T$ ($t \in [0, 2\pi]$) とパラメータづけできる。 $\varphi'(t) = (-\sin t, \cos t)^T$, $f(\varphi(t)) = \frac{1}{\cos^2 t + \sin^2 t} (-\sin t, \cos t)^T = (-\sin t, \cos t)^T$ であるから、 $f(\varphi(t)) \cdot \varphi'(t) = (-\sin t)^2 + (\cos t)^2 = 1$ となり、

$$\int_C f \cdot dr = \int_0^{2\pi} f(\varphi(t)) \cdot \varphi'(t) dt = \int_0^{2\pi} 1 dt = 2\pi.$$

(2) $f = (f_1, f_2)^T$ とすると、

$$\begin{aligned} \operatorname{rot} f &= \det \begin{pmatrix} \frac{\partial}{\partial x} & f_1 \\ \frac{\partial}{\partial y} & f_2 \end{pmatrix} = \frac{\partial f_2}{\partial x} - \frac{\partial f_1}{\partial y} = \frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{x}{x^2 + y^2} \right) - \frac{\partial}{\partial y} \left(\frac{-y}{x^2 + y^2} \right) \\ &= \frac{(x^2 + y^2) \cdot 1 - 2x \cdot x}{(x^2 + y^2)^2} - \frac{(x^2 + y^2) \cdot (-1) - 2y \cdot (-y)}{(x^2 + y^2)^2} = 0. \end{aligned}$$

- (3) もしも f がポテンシャルを持てば、 C は閉曲線であるから、 $\int_C f \cdot dr = 0$ となるはずであるが、(1) の結果はそうでないことを示している。ゆえに f はポテンシャルを持たない。
- (4) (もちろん定義に従って線積分を計算してもよい。) $\Omega := \{(x, y); x > 0\}$ とおくと、これは単連結領域であり、 $\operatorname{rot} f = 0$ ($\operatorname{in} \Omega$) が成り立つので、 f は Ω に制限するとポテンシャルを持つことがわかる。 \tilde{C} は Ω 内の閉曲線であるから、 $\int_{\tilde{C}} f \cdot dr = 0$. ■

参考4 \mathbf{R}^3 のベクトル場 $f(x, y, z) = \begin{pmatrix} 2xy \\ x^2 - z \\ -y \end{pmatrix}$ について以下の問に答えよ。

- (1) $\operatorname{rot} f$ を求めよ。
- (2) f はポテンシャルを持つかどうか調べよ (理由を述べよ)。
- (3) 折れ線 $(1, 1, 1) \rightarrow (2, 3, 1) \rightarrow (3, 3, 1)$ を C とするとき、 $\int_C f \cdot dr$ を求めよ。

解答

(1) $\mathbf{f} = (f_1, f_2, f_3)^T$ と書くことにする。

$$\begin{aligned}\operatorname{rot} \mathbf{f} &= \det \begin{pmatrix} \frac{\partial}{\partial x} & f_1 & \mathbf{e}_1 \\ \frac{\partial}{\partial y} & f_2 & \mathbf{e}_2 \\ \frac{\partial}{\partial z} & f_3 & \mathbf{e}_3 \end{pmatrix} = \left(\frac{\partial f_3}{\partial y} - \frac{\partial f_2}{\partial z}, \frac{\partial f_1}{\partial z} - \frac{\partial f_3}{\partial x}, \frac{\partial f_2}{\partial x} - \frac{\partial f_1}{\partial y} \right)^T \\ &= \left(\frac{\partial}{\partial y}(-y) - \frac{\partial}{\partial z}(x^2 - z), \frac{\partial}{\partial z}(2xy) - \frac{\partial}{\partial x}(-y), \frac{\partial}{\partial x}(x^2 - z) - \frac{\partial}{\partial y}(2xy) \right)^T \\ &= (-1 + 1, 0 - 0, 2x - 2x)^T = \mathbf{0}.\end{aligned}$$

(2) \mathbf{f} は空間全体 \mathbf{R}^3 で定義されていると考えることができ、 \mathbf{R}^3 は単連結であり、 $\operatorname{rot} \mathbf{f} = \mathbf{0}$ が成り立つから、 \mathbf{f} はポテンシャルを持ち、それは

$$F(\mathbf{x}) := \int_{C_{\mathbf{x}}} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r}$$

で計算できる。ただし $C_{\mathbf{x}}$ は原点 $\mathbf{0}$ と $\mathbf{x} = (x, y, z)^T$ を結ぶ線分とする。そのパラメータづけは $\varphi(t) = t\mathbf{x} = (tx, ty, tz)^T$ ($t \in [0, 1]$) で与えられる。 $\varphi'(t) = \mathbf{x} = (x, y, z)^T$, $\mathbf{f}(\varphi(t)) = (2t^2xy, t^2x^2 - tz, -ty)^T$ であるので、 $\mathbf{f}(\varphi(t)) \cdot \varphi'(t) = 2t^2xy \cdot x + (t^2x^2 - tz) \cdot y + (-ty) \cdot z = 3t^2x^2y - 2tyz$ となり、

$$F(\mathbf{x}) = \int_0^1 (3t^2x^2y - 2tyz) dt = x^2y - yz.$$

この F は確かに $\nabla F = (2xy, x^2 - z, -y)^T = \mathbf{f}$ をみたす。

(3)

$$\begin{aligned}\int_C \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} &= F(C \text{ の終点}) - F(C \text{ の始点}) = F(3, 3, 1) - F(1, 1, 1) \\ &= (3^2 \cdot 3 - 3 \cdot 1) - (1^2 \cdot 1 - 1 \cdot 1) = 24.\end{aligned}$$

参考5 \mathbf{R}^2 から原点を除いた集合 Ω で定義されたベクトル場 $\mathbf{f}(x, y) = \left(\frac{-y}{x^2 + y^2}, \frac{x}{x^2 + y^2} \right)^T$ に対して、以下の問に答えよ。

(1) 原点中心半径 1 の円を反時計回りに一周する曲線を C とするとき、線積分 $\int_C \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r}$ を求めよ。(2) \mathbf{f} のポテンシャルは存在しないことを示せ。(3) 右半平面 $H = \{(x, y); x > 0, y \in \mathbf{R}\}$ に \mathbf{f} を制限した $\mathbf{f}|_H$ のポテンシャルを求めよ。

解答 (1) これは「参考3」の (1) と同じであるので省略する。結果は 2π 。(2) 閉曲線 C 上の線積分が 0 にならない (2π) ので、ポテンシャルは存在しない。(3) H は単連結領域で、 $\operatorname{rot} \mathbf{f} = \mathbf{0}$ (in Ω) が成り立つから、 $\mathbf{f}|_H$ はポテンシャルを持つ。任意の $\mathbf{x} = (x, y)^T$ に対して、 $(1, 0)^T$ と \mathbf{x} を結ぶ曲線 $C_{\mathbf{x}}$ を次のように定める。 $(1, 0)^T$ と $(x, 0)^T$ を結ぶ線分 C_1 と、 $(x, 0)^T$ と $(x, y)^T$

を結ぶ円弧 C_2 を結んだもの ($C = C_1 + C_2$) とする。 C_1 は $\varphi(t) = (t, 0)$ ($t \in [1, x]$) とパラメータづけできるので、

$$\int_{C_1} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} = \int_1^x \left(\frac{-0}{t^2 + 0^2}, \frac{t}{x^2 + 0^2} \right)^T \cdot (1, 0)^T dt = \int_0^x 0 dt = 0.$$

一方、 C_2 は $\psi(t) = (x \cos t, x \sin t)$ ($t \in [0, \theta]$, ただし $\theta := \tan^{-1}(y/x)$) とパラメータづけできる。

$$\begin{aligned} \int_{C_2} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} &= \int_0^\theta \left(\frac{-x \sin t}{x^2 \cos^2 t + x^2 \sin^2 t}, \frac{x \cos t}{x^2 \cos^2 t + x^2 \sin^2 t} \right)^T \cdot (-x \sin t, x \cos t)^T dt \\ &= \int_0^\theta 1 dt = \theta = \arctan^{-1} \left(\frac{y}{x} \right). \end{aligned}$$

ゆえにポテンシャルは

$$F(\mathbf{x}) := \int_{C_{\mathbf{x}}} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} = \int_{C_1} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} + \int_{C_2} \mathbf{f} \cdot d\mathbf{r} = 0 + \arctan^{-1} \left(\frac{y}{x} \right) = \arctan^{-1} \left(\frac{y}{x} \right).$$